

新潟市立小針小学校



とぼりの子



平成30年4月18日発行

No.1

児童数 712名

「いい学校」をつくります

校長 長谷川 豊

私には大切にしている言葉があります。

学校とは、心をぼろぼろにするところではなく、心を磨くところ
怠けるところではなく、努力するところ
仲間はずれにするところではなく、認め合うところ
みんなが待っているところ
また明日行きたくなる場所

(元 福島県三春町教育長 武藤義男)

この「学校とは…」には、すべての子どもを包み込むやさしさと強さがあります。すべての子どもや保護者を幸せにするという矜持さえ感じます。私は、「学校」という言葉と、「先生」という言葉を改めて噛みしめています。

小針小学校には、教員だけでなく、司書・事務職員・特別支援教育支援員・用務員・栄養士・調理員・地域教育コーディネーターの方々がいます。新任式・始業式での紹介で、私は、みんな「先生」という呼称を付けました。なぜなら、それぞれの方々の仕事自体が、それぞれの方々の仕事に取り組む姿勢そのものが、子どもへの教育になっているからです。

小針小学校では、教員かどうかの区別なく、子どもの前ではみんな先生です。それぞれの職種で、子どものためを一番に考え、子どもを見守り、ときには教え、ときには伝え、ときにはやって見せ、ときには言ってみせ、ときにはあえて教えず、子どもに様々な教育をしているのです。それが、小針小学校の教職員集団です。

「日本でいちばん大切にしたい会社（著：坂元光司）」で掲載されている寒天メーカーの伊那食品工業株式会社社長・塚越寛さんは言います。

「いい会社」とは、単に経営上の数字が良いというだけでなく、会社を取り巻くすべての人々が、日常会話の中で「いい会社だね」と言ってくれるような会社のことです。「いい会社」は、自分たちを含め、すべての人々を幸せにします。

一人一人の子どもが「幸せ感」を感じるとともに、保護者や地域の方々、小針小学校にかかわってくださるすべての人たちが「幸せ感」を感じる学校にしたいと強く思います。私たちの国では、明治の昔から教育のあるべき姿をこう言ってきました。

家庭の教えで芽が出て、学校の教えで花が咲き、地域の教えで実がなる。

子どもにとって、おうちの方も地域の方々もみんな先生です。「いい学校だね」と言っていただけのように頑張りますので、お力添えをお願いいたします。